

川崎市宮前区版 2025年12月25日掲載



おだかつひさ

1961年市區生まれ。鹿児島東邦高校、中央大学法学部卒業（地方自治、都市政策専攻）国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選、以降6期連続当選。第44代市議会議員。好きな言葉「知行合一」、「道を進くる者は皆内足らざるなり」有馬在住

おだかつひさ 撮影

子どもの成長に応じて、切れ目ない支援を 相談窓口から各支援サービスにつなげる連携体制を強化! みらい川崎市議会議員団 おだかつひさ

来年度施行予定の次期「数値目標」などが注目され、「川崎市いじめ・若者のいじめ」が、今回の緊急審議の「未来応援プラン」の素案案の特徴は「いじめが安が11月の下旬に示されまし心して暮らせる支援体制でした。

これは、「いじめ」も基本点から、障害分野などでも「法」に基づく「市民村」「行政の縦割り」の弊害とも計画」にあたりまを排して、教育、健康福祉。アラートにいじめ、社会、医療分野など複数の関係局との連携を強めた構見込みと確保方策などの成となっていることで

子どもの発達不安を払拭する視点から、障害分野などでも「法」に基づく「市民村」「行政の縦割り」の弊害とも計画」にあたりまを排して、教育、健康福祉。アラートにいじめ、社会、医療分野など複数の関係局との連携を強めた構見込みと確保方策などの成となっていることで

保育所から「認定こども園」への移行を推進する中で、里親のリクルート、子どもと里親家庭の

認定こども園への移行のと、里親と里子を一體的に連携を取めてきました。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。

相談窓口として「区役所地域見守り支援センター」と各区に整備した「子ども発達相談センター」を各区内に整備した

整備目標、定期を150名としています。

子どもの発達不安を払拭する視点から、障害分野などでも「法」に基づく「市民村」「行政の縦割り」の弊害とも計画」にあたりまを排して、教育、健康福祉。アラートにいじめ、社会、医療分野など複数の関係局との連携を強めた構見込みと確保方策などの成となっていることで

保育所から「認定こども園」への移行を推進する中で、里親のリクルート、子どもと里親家庭の

認定こども園への移行のと、里親と里子を一體的に連携を取めてきました。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。

相談窓口として「区役所地域見守り支援センター」と各区に整備した「子ども発達相談センター」を各区内に整備した

整備目標、定期を150名としています。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。

里親に委託されている「里親支援センター」の設置を強化します。早期対応、早期サービス提供の体制を強化します。